

コ イクジステンス
CO-EXISTENCE . . .

(自然との共生 . . .)



多くのページを費やして『へボ』に纏わる悲喜交々を思い付く俚に書き連ねてきたが、
滔々、最終ラウンドが近づいたようだ . . .

ある時は、『へボ』の味方になり、ある時は、極悪な天敵として関わってきた。

我々蜂狂は、『へボ』ちゃんから、四季折々、色々な恵を頂戴している。最も嫌われる蜂の巣の盗人泥棒、「蜂の子」の恵み、蜂追いの癒し、探巣の快感、飼育巣の鑑賞等これ程楽しませてくれる虫はそうは居ない . . . 『へボ』サイドから見れば、巣毎の搔っ攫い。これ程憎たらしい事はない。子々孫々の滅亡に曝される . . . こんな奴等(蜂狂)に、一刺し、二刺し、食らわせても、まだ、こと足りない。この程度では済まされないダメージを被るのだ . . . 最近の蜂狂と来たら、遠慮会釈なく、片っ端から搔っ攫う。

『こんな奴等に掛っちゃ一堪らない . . .』と言うのが、『へボ』の言い分だろう . . .

それでも、最近、蜂狂の中に気の効いた奴等が、幾分、現れ出し、巣毎のカッパライに歯止めが掛り出した、が、マダマダだ . . . 『へボハウス』なる窮屈な小屋に押し込められ、そこでイヤイヤ交尾行動を取らされる。だが、餌だけは食い切れない位与えてくれる . . . なーんて思っているのだろうか？

近年、年の所為か？不思議と乱獲には気を使うようになって来た。所詮、『へボ』が好きで、好きで堪らない。家にいても遣る事がないので、必然的に山へ出掛ける事になる . . . 一人で行けば誰にも迷惑が掛らないし、気楽だ。ガソリン代にムスビ2つとオヤツ、冷えた缶ビールが1本あれば結構エンジョイ出来る。ラジオか小鳥の囀りを聴きながらの散策である。特別、欲：ノルマがある訳ではないから、尚更、気楽だ . . .

毎年の方針をこう決めた . . .

飼い蜂は、30巣と決め、家で5~6巣、後は深山の特別区に活ける。そして、家の2~3巣を除き、総て自然に剥かしてやる。即ち、自然交配させてやるのだ . . .

なおかつ、見つけた自然巣の半分は、状況を見て燻す事はせず、これも自然交配の為、手を付けない事にしている。

昨年も、自然巣を30巣ほど残してやった。これに飼い蜂の10数巣が加わる・・・

『ヘボ』の乱獲は、年々、進み、ごく限られた所にしか棲息しなくなった。

『ヘボ』好きなYが、年中、『ヘボ』の居場所を捜し求めていたのでは滅入ってしまう。もう、このような政策を採って長い・・・飼い蜂探しも、自分の城の何処かに行けば何とかなる。こうして、毎年、困らないような手段を講じてきて長い・・・

毎年、各地で『ヘボ・コンテスト』が開かれている。蜂狂は、競って最高の巣を出品する。蜂狂共は、『我こそヘボ名人…』と、言わんばかりに張り切っているようだが、

『ヘボ』にしてみれば迷惑な話した・・・ナケナシの山の巣を掻き集め、こうして潰されるのでは、たまったものではない・・・

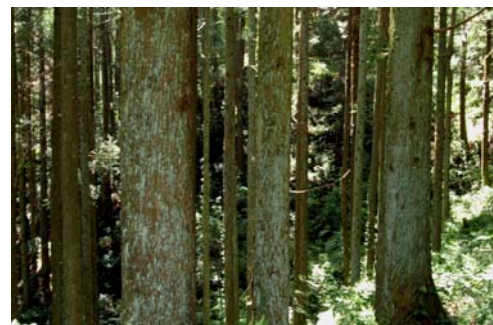
『ヘボ・コンテスト』は、こうして蜂狂の競争を煽り、自然界から急激に『ヘボ』を減らし出した。この状態が続けば、『ヘボ』は、近い将来、激減するだろう・・・せめて、飼育した巣の半分は、自然界へ返してやりたいものである。或いは、飼育した巣から女王蜂や雄蜂が



始めて、後、1週間～10日位は我慢し、若干、目減りはしても、ある程度の種蜂を蜂放させてから燻すくらいの配慮は欲しいものである。どうだろうか？

もっと、大きな問題がある。地球規模での破壊だ・・・今、この地球上から、毎日、四国位の広さの森林が消えている。森林破壊は、憂うべき問題で、石化エネルギーの消費と併せ、温暖化を助長させている。フィリピン・ルソン島の山崩れによる死者、数千人規模の生き埋め惨事等序の口だろう・・・第1章で述べた大惨事が、今後、予想されるだけに？・・・もう少し、小さな次元の話として、行政マターの森林行政がある。

言ってみれば野放し状態・・・森林とリンクして水の問題もある。日本は、恵まれ過ぎた国・・・台風時の大水は話題になるが、飲み水で深刻な問題は抱えていない。あっても夏の数十日程度・・・所が、ヨーロッパや黒海周辺国、それに中国では非常に深刻な水不足を抱えている。気候変動の上、農業用水として河川の水を汲み上げ過ぎている、と、いう事だ。特に、中国の黄河上流域は深刻だ。一方、日本の森林行政については、度々、『タカ研』の今井会長さんが蘊蓄のある御高説を提案され、県マターで取り上げられようとしている。



昨年、面白いハプニングがあった。

東山の麓の里山でヘボ追いをしていたら、何と2kmも飛んで川を越え、更に、崖の上に舞い上がる。2日掛りで追い詰めると、何と、そこには、県の畜産試験場があった。

近くの道端に餌を仕掛けると、上手い具合に道を越え、畑の方に飛び、建屋の裏側に飛び込むのが見えた・・・行ってみると飼い蜂だった。『畜生・・・』2日も掛けて・・・畜産試験場の職員が、公的試験場内で遊んでいる行為らしい？

県の職員が、神聖なる職場内で『蜂飼い』をする…なんて由々しき問題・・・と知事宛にメールを打った。が、時間が経ち、忘れてしまった。

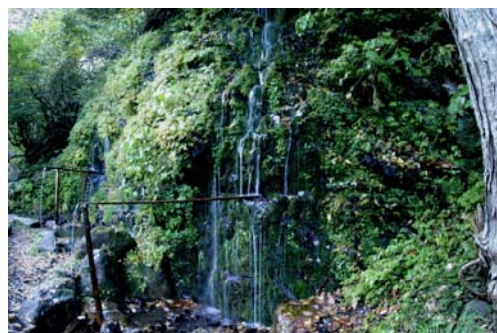
10日程して、農政部長から丁重なるメールが届いた。それは、知事から指示を受け、これから調査に入ると言う趣旨だった。電話で、場長から聞いた話では、事実なので徹底的に調査し、二度と、このような事がないよう抜本策を考える・・・と言う付記があった。1週間ばかりして、また、恒久対策を含めた、県としての綱紀肅正策を講じた旨の平謝りのメールが来た。実は、この農政部長をよく存知上げていたので、その旨を書き、余り職員を叱らないで、寧ろ、このような貴重な職員がいるのであれば、森林行政とヘボの飼育・食品事業化をリンクさせ、画期的な事業を組まないか？・・・と、提案した。



長野県は行政と議会がギクシャクしていて、議会は、何時も知事の足をヒッパテばかりいる。難しい事は判っていたが、ダメモト・・・暫くして、また、メールが来た。丁度、予算期で、テンヤワンヤ・・・『落ち着いたら、お話を聞きに出掛けたい・・・』と言うものだった。その後、催促もしていないが、超、保守的な議会の事・・・事ある毎に知事に反論しているから、下手な提案は、仮に企画されても、一寸、気になる??? 内部のイガミ合いは、程々にして、まともな行政改革をして貰いたいものである。

信州は、日本の水瓶^{みずがめ}、森林資源維持・確保を真剣に考えなければならない・・・

森林資源確保の為には、昆虫様、取分け、スズメバチ類（ヘボ）は、大事にしていかなければならない・・・昆虫界の頂点に立つスズメバチの仲間は、昆虫族増減のバランス役を果たしている。

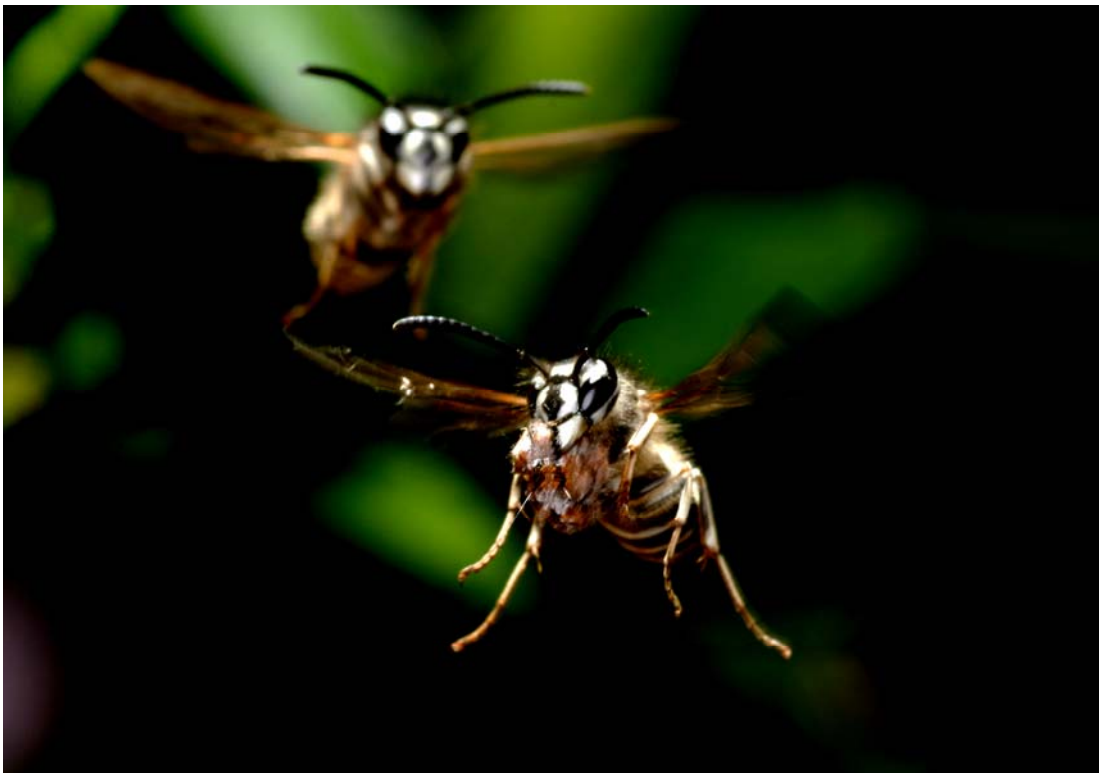


此処に、y が提唱する自然との共存：Co-existence の意義がある・・・

即ち、『ヘボ』は、Co-existence の中心的な役割を担ってくれているのだ・・・



幼虫から蛹へ・・・



餌を啜えた働き蜂・・・

(高嶋清明さん撮影)